

Silk Test 13.5

リリースノート

Micro Focus
575 Anton Blvd., Suite 510
Costa Mesa, CA 92626

Copyright © 2012 Micro Focus. All rights reserved. Silk Test は Borland Software Corporation に由来する成果物を含んでいます, Copyright © 2012 Borland Software Corporation (a Micro Focus company).

MICRO FOCUS, Micro Focus ロゴ、及びその他は Micro Focus IP Development Limited またはその米国、英国、その他の国に存在する子会社・関連会社の商標または登録商標です。

その他、記載の各名称は、各所有社の知的所有財産です。

2012-12-10

目次

Silk Test 13.5 リリース ノート	5
Silk Test の新機能	6
すべてのクライアント	6
Microsoft Windows 8	6
Windows Internet Explorer のサポート	6
Mozilla Firefox のサポート	6
Google Chrome のサポート	6
64 ビット Windows Internet Explorer バージョンのサポート	6
Adobe Flex 4.6 のサポート	6
Java 7 のサポート	6
Microsoft .NET Framework 4.5 のサポート	7
ユーザビリティの改善	7
ブラウザの便利な切り替え	7
Silk Test Workbench	7
SAP eCATT との統合	7
Silk Test Workbench のカスタム コントロール	8
Microsoft SQL Server 2012 のサポート	8
Silk Test Workbench 言語リファレンスの改善	8
Rumba 画面検証	8
Silk Test Classic	8
Silk Test Classic のカスタム コントロール	8
Silk4NET	8
Silk4NET での記録	8
TrueLog と Silk4NET	8
Silk4NET の [オプション] ユーザー インターフェイス	9
Silk4NET のカスタム コントロール	9
Silk4NET の Locator Spy	9
Silk4NET ヘルプの改善	9
Microsoft Visual Studio 2012	9
Silk4J	9
Silk4J のカスタム コントロール	9
Silk Test 製品スイート	10
システム要件および前提条件	11
ハードウェア要件	11
プラットフォーム サポート	11
Adobe Flex のサポート	12
Java のサポート	13
Silk Test Classic の DSN サポート	13
インストール手順	14
既知の問題	15
SAP アプリケーション	15
Web アプリケーション	16
Silk4NET TrueLog	17
Silk Test Workbench	18
全般的な問題	21
Silk Test Classic	22
解決済みの問題	24
サポート終了コンポーネント	25
Silk Test 13.5 の EOL コンポーネント	25

次のリリースの Silk Test EOL コンポーネント	25
次のリリース後のリリースの Silk Test の EOL コンポーネント	26

Silk Test 13.5 リリースノート

2012年10月

このファイルでは、ヘルプには表示されない場合もある重要な情報について説明します。このファイル全体をお読みください。

インストールおよびライセンスの問題については、『[Silk Test インストール ガイド](#)』を参照してください。

このドキュメントの最新バージョンについては、http://supportline.microfocus.com/Documentation/books/ASQ/SilkTest/135/ja/SilkTest_ReleaseNotes.pdf を参照してください。

カスタマー ケアからサポートを受けるには、supportline.microfocus.com に移動してください。

Silk Test の新機能

このセクションでは、Silk Test に対して行われた重要な改善と変更を示します。
Silk Test 13.5 では、以下の機能をサポートしています。

すべてのクライアント

すべてのクライアントで、以下の機能が新しくなりました。

Microsoft Windows 8

Silk Test でのアプリケーションのテストが Microsoft Windows 8 上で行えるようになりました。

 **注:** Metro スタイル アプリはサポートされません。

Windows Internet Explorer のサポート

Silk Test では、以下のバージョンで実行されるアプリケーションの記録と再生サポートが追加されました。

- Windows Internet Explorer 10

Mozilla Firefox のサポート

Silk Test では、以下のバージョンで実行されるアプリケーションの再生サポートが追加されました。

- Mozilla Firefox 12
- Mozilla Firefox 13
- Mozilla Firefox 14

Google Chrome のサポート

Silk Test では、以下のバージョンで実行されるアプリケーションの再生サポートが追加されました。

- Google Chrome 19
- Google Chrome 20
- Google Chrome 21

64 ビット Windows Internet Explorer バージョンのサポート

Silk Test では現在 64 ビットバージョンの Windows Internet Explorer をサポートしています。

Adobe Flex 4.6 のサポート

Silk Test では Adobe Flex4.6 アプリケーションがサポートされています。

Java 7 のサポート

Silk Test は現在、Open Agent に対して Java 7 をサポートしています。

Microsoft .NET Framework 4.5 のサポート

Silk Test で、Microsoft .NET Framework 4.5 で開発されたアプリケーションまたは Microsoft .NET Framework 4.5 で実行されるアプリケーションがサポートされるようになりました。

ユーザビリティの改善

Windows Internet Explorer に表示される UI 要素のプロパティのみを Silk Test で表示

どのオブジェクトが非表示でないかをテストする IsVisible 関数で、style インターフェイスでなく、currentStyle インターフェイスから返されるプロパティを使用するようになりました。Silk Test は、表示されない要素のプロパティを検出しなくなっています。このため、多数の要素を含む Web ページを Silk Test でテストしている場合、Windows Internet Explorer のパフォーマンスは向上します。以前の動作に依存するスクリプトを使用している場合は、OPT_COMPATIBILITY オプションを 13 に設定して、Silk Test 13.0 の動作を有効にします。

テキスト フィールド認識の改善

Silk Test は、Windows Forms のテキスト フィールドをテキスト フィールドとして認識するようになりました。コンボ ボックスとして認識することはなくなりました。以前の動作に依存するスクリプトを使用している場合は、OPT_COMPATIBILITY オプションを 13 に設定して、Silk Test 13.0 の動作を有効にします。

独自に作成したメニュー項目の拡張サポート

Silk Test は現在、独自に作成したメニュー項目の拡張サポートを提供しています。以前のバージョンの Silk Test の場合、以下のようなロケータを持つ独自に作成したメニュー項目が Silk Test によって記録されていました。

```
/FormsWindow[@caption='Text Menu']//MenuItem[1]
```

Silk Test 13.5 を使用すると、同じ独自作成のメニュー項目に対して、以下に示す拡張ロケータが Silk Test によって記録されます。

```
/FormsWindow[@caption='Text Menu']//MenuItem[@caption='Courier New']
```

拡張ロケータには、インデックスでなくメニュー項目 @caption='Courier New' のキャプション属性が含まれているため、読み取りが簡単です。新しいロケータは再利用も簡単にできます。インデックスが変更されるかどうかを気にする必要がなくなるためです。

ブラウザの便利な切り替え

アプリケーション構成に、Web を使用するテストのための新しい設定が追加されました。この設定を使用すると、インストールされたブラウザの中からテストの再生に使用するものを簡単に選択できます。

Silk Test Workbench

Silk Test Workbench で、以下の機能が新しくなりました。

SAP eCATT との統合

Silk Test Workbench は、SAP eCATT と統合することにより、HTML テクノロジに基づく製品について完全なテスト サポートを SAP ユーザーに提供します。Silk Test Workbench を eCATT のユーザー インターフェイス内で使用すると、Silk Test Workbench の資産は eCATT テストと共に取得され、SAP/R3 データベースに格納されます。

Silk Test Workbench のカスタム コントロール

Silk Test Workbench が専用サポートを提供していないカスタム コントロールに対応するカスタム クラスを作成できます。カスタム クラスを作成すると、以下の利点があります。

- VB.NET スクリプトおよびビジュアル テストのロケーターが効率化されます。
- カスタム コントロールに使用できる、基になるプロパティおよびメソッドを公開できます。
- カスタム コントロールと対話するための再利用可能コードを簡単に記述できます。

Microsoft SQL Server 2012 のサポート

Silk Test Workbench で Microsoft SQL Server 2012 がサポートされるようになりました。

Silk Test Workbench 言語リファレンスの改善

Silk Test Workbench 言語リファレンスには信頼できる、管理可能で包括的なテストを記述するために必要な情報を検索する際に役立つ追加機能が記載されています。

Rumba 画面検証

Rumba アプリケーションに対してテストを行う際に、画面検証を手動または自動で挿入できるようになりました。

Silk Test Classic

Silk Test Classic で、以下の機能が新しくなりました。

Silk Test Classic のカスタム コントロール

Silk Test Classic が専用サポートを提供していないカスタム コントロールに対応するカスタム クラスを作成できます。カスタム クラスを作成すると、以下の利点があります。

- 4Test スクリプトのロケーターが効率化されます。
- カスタム コントロールに使用できる、基になるプロパティおよびメソッドを公開できます。
- カスタム コントロールと対話するための再利用可能コードを簡単に記述できます。

Silk4NET

Silk4NET で、以下の機能が新しくなりました。

Silk4NET での記録

Silk Test Recorder を開始しなくても、Visual Studio 内で Silk4NET テストを記録できます。新しい Silk4NET プロジェクトを作成するか、新しい Silk4NET テストを Visual Studio の既存の Silk4NET プロジェクトに追加する場合は、テストを選択して記録できます。記録が終了すると、記録されたテストは自動的に解析されて、新しいスクリプト ファイルに格納されます。

TrueLog と Silk4NET

Silk4NET を操作するときに、TrueLog を使用して、Silk4NET テストの実行中にビジュアル実行ログを作成できるようになりました。TrueLog ファイルは、Silk4NET テストが実行されたプロセスの作業ディレ

クトリに作成されます。 Silk4NET テストの実行が完了すると、新しい **再生完了** ダイアログ ボックスが開き、完了したテストの TrueLog を確認することを選択できます。

Silk4NET の [オプション] ユーザー インターフェイス

Visual Studio で Silk4NET プロジェクトのオプションを設定できるようになりました。たとえば、テスト中のアプリケーションの基本状態やアプリケーション構成その他のオプションを設定できます。 Silk4NET のオプションはすべて、プロジェクトに固有の構成ファイルに格納されます。

Silk4NET のカスタム コントロール

Silk4NET が専用サポートを提供していないカスタム コントロールに対応するカスタム クラスを作成できます。 カスタム クラスを作成すると、以下の利点があります。

- VB.NET スクリプトおよび C# スクリプトのロケーターが効率化されます。
- カスタム コントロールに使用できる、基になるプロパティおよびメソッドを公開できます。
- カスタム コントロールと対話するための再利用可能コードを簡単に記述できます。

Silk4NET の Locator Spy

Silk4NET の **Locator Spy** を使用してアプリケーションのコントロールのロケーターをキャプチャできるようになりました。 キャプチャしたロケーターはテスト スクリプトに貼り付けることができます。 また、テスト スクリプトでロケーターの属性を手動で編集し、変更を **Locator Spy** で検証することができます。 **Locator Spy** を使用することで、テスト メソッド内のロケーターが有効であることが保障されます。

Silk4NET ヘルプの改善

Silk4NET ヘルプ に、アプリケーションの機能をテストする際に役立つ情報が追加されました。 *Silk4NET* ヘルプ に追加された情報は、以下のとおりです。

- 言語リファレンスがヘルプに追加されました。 このリファレンスでは、アプリケーションのテストに使用できる Visual Basic .NET および Visual C# のクラスおよびメソッドについて説明しています。
- キーワードおよび検索機能が追加されました。 これにより、必要な内容を簡単に見つけることができます。
- Silk4NET のワークフローに従うようにヘルプの内容が再構成されました。

Microsoft Visual Studio 2012

Silk4NET を Microsoft Visual Studio 2012 に統合してアプリケーションをテストできるようになりました。

Silk4J

Silk4J で、以下の機能が新しくなりました。

Silk4J のカスタム コントロール

Silk4J が専用サポートを提供していないカスタム コントロールに対応するカスタム クラスを作成できます。 カスタム クラスを作成すると、以下の利点があります。

- スクリプトのロケーターが効率化されます。
- カスタム コントロールに使用できる、基になるプロパティおよびメソッドを公開できます。
- カスタム コントロールと対話するための再利用可能コードを簡単に記述できます。

Silk Test 製品スイート

Silk Test 製品スイートには、以下のコンポーネントが含まれています。

- Silk Test Workbench : Silk Test Workbench は、新しいネイティブ品質テスト環境です。上級者用の .NET スクリプトと、テストのアクセス可能性を高める革新的なストーリーボードベースのビジュアルテストが提供されます。
- Silk4NET : Silk4NET Visual Studio プラグインを使用すると、Visual Studio で直接 Visual Basic または C# のテスト スクリプトを作成できます。
- Silk4J : Silk4J Eclipse プラグインを使用すると、Eclipse 環境で直接 Java ベースのテスト スクリプトを作成できます。
- Silk Test Recorder : Silk Test Recorder を使用すると、GUI を使用してテストを記録および再生し、それらのテストを Silk Test Classic、Silk4J、または Silk4NET にエクスポートできます。
- Silk Test Classic : Silk Test Classic は、従来の 4Test Silk Test 製品です。
- Silk Test Agent : Silk Test Agent は、テストのコマンドを GUI 固有のコマンドに変換するソフトウェアプロセスです。つまり、テストするアプリケーションをエージェントが動かし、監視しています。ホストマシン上で 1 つのエージェントをローカルに実行できます。ネットワーク環境では、任意の数のエージェントをリモート マシン上で実行できます。

システム要件および前提条件

以下のセクションでは、Silk Test をインストールして実行するためのシステム要件を示します。

ハードウェア要件

以下のハードウェア要件をお勧めします。

システム領域	要件
プロセッサ	Intel または AMD の DualCore プロセッサ (2 GHz)
RAM	2 GB
ハードディスク領域	2 GB の空きディスク領域



注: 自作機 (ベアボーンキット、ショップブランド機を含む) は動作保証外です。

プラットフォーム サポート

プラットフォーム

Silk Test 13.5 は、以下のプラットフォームで実行されます。

- Microsoft Windows XP SP3
- Microsoft Windows Vista SP2
- Microsoft Windows Server 2008
- Microsoft Windows Server 2008 R2
- Microsoft Windows 7
- Microsoft Windows 7 SP1
- Microsoft Windows 8
- Microsoft Windows Server 2012

テクノロジー ドメインおよびブラウザ

Silk Test 13.5 では、以下のブラウザを使用するアプリケーションまたは以下で開発されるアプリケーションがサポートされています。

テクノロジーの種類	Open Agent を使用する Silk Test Workbench、Silk Test Recorder、Silk4NET、Silk4J、Silk Test Classic でサポートされるバージョン	Classic Agent を使用する Silk Test Classic でサポートされるバージョン
Adobe Flex	3.5*、4.0、4.1、4.5.1、4.6	サポート対象外
Mozilla Firefox (再生のみ)	3.6*、10、12*、13*、14*	サポート対象外
Google Chrome (再生のみ)	19*、20*、21*	サポート対象外

テクノロジーの種類	Open Agent を使用する Silk Test Workbench、Silk Test Recorder、Silk4NET、Silk4J、Silk Test Classic でサポートされるバージョン	Classic Agent を使用する Silk Test Classic でサポートされるバージョン
Windows Internet Explorer	7*、8、9、10	7*、8* (再生のみ)
Java AWT/Swing	Java 1.6、Java 1.7	サポート対象外
Java SWT	3.5*、3.6、3.7	サポート対象外
SAP	SAPGUI クライアント 7.10、SAPGUI クライアント 7.20、SAPGUI クライアント 7.30	サポート対象外
Silverlight	3 (Silverlight Runtime 4)、4 (Silverlight Runtime 4 および Silverlight Runtime 5)	サポート対象外
Rumba	8.1、8.2、8.3	サポート対象外
Win 32	任意	32 ビット プラットフォームのみ*
WinForms	.NET 3.0、3.5、3.5 SP1、4.0、4.5	サポート対象外
WPF	.NET 3.5 SP1、4.0、4.5	サポート対象外

データベース

Silk Test 13.5 では、Silk Test Workbench の資産の格納について、以下のデータベースがサポートされています。オペレーティング システムについては、注記を参照してください。

- Microsoft SQL Server 2005 (SP3) + Express*
- Microsoft SQL Server 2008 (SP2) + Express
- Microsoft SQL Server 2012

Eclipse 環境

Eclipse 3.4* 以降では Silk4J を統合できます。ただし、TrueLog ファイルの書き出しを行うことができるバージョンは、Silk Test に同梱されているバージョン 3.7.2 以降のバージョンだけです。


Visual Studio 環境

Visual Studio 2010 Professional 以降では Silk4NET を統合できます。

* これらのオペレーティング システム、機能、および統合は、今後の Silk Test バージョンでサポートされなくなる予定です。詳細については、「サポート終了コンポーネント」を参照してください。

Adobe Flex のサポート

Silk Test は、サポート対象のすべてのブラウザおよび Adobe AIR 2.0 以降 (Adobe Flex 4.x で作成) を使用した Adobe Flex 3.5*、4.0、4.1、4.5.1、および 4.6 のテストをサポートしています。

 **注:** Silk Test は、Google Chrome 上で実行する Web アプリケーションに対して、子ドメイン テクノロジー (Adobe Flex など) のテストをサポートしていません。

Silk Test は Adobe Flash Player 10 以降をサポートしています。

* これらのバージョンは今後の Silk Test バージョンでサポート対象外になる予定です。詳細については、「サポート終了コンポーネント」を参照してください。

Java のサポート

Open Agent のサポート

Silk Test では、Open Agent を使用する Silk Test Workbench、Silk Test Recorder、Silk4NET、Silk4J、Silk Test Classic について以下の Java コンポーネントがサポートされています。

- SWT 3.5*、3.6、および 3.7 スタンドアロンと Rich Client Platform (RCP) アプリケーション (ブラウザでアプレットとして実行される SWT スタンドアロン アプリケーションはサポートされていません)
- Java バージョン 1.6 および 1.7
- AWT
- Swing (Java Foundation Class を含む)
- アプレット (Windows Internet Explorer および Mozilla Firefox)

Silk Test では、Classic Agent を使用した Java アプリケーションのテストはサポートされていません。

* これらのバージョンは今後の Silk Test バージョンでサポート対象外になる予定です。詳細については、「サポート終了コンポーネント」を参照してください。

Silk Test Classic の DSN サポート

Silk Test Classic のデータ ドリブン ワークフローは、以下をサポートします。

- テキスト ファイルおよびカンマ区切り値ファイル (*.txt ファイルおよび *.csv ファイル)
- MS Excel
- MS Access
- MS SQL Server
- Oracle (部分的なサポート)
- SyBase SQL Anywhere

Silk Test Classic は、ODBC を使用して上記のデータベースにアクセスするため、有効な ODBC ドライバを持つこれらのデータベースのバージョンをサポートします。



注: Silk Test Classic の **Select Data Source** ダイアログ ボックスで、Silk DDA Excel または Segue DDA Excel のいずれかのデータ ソースを選択できます。新しいデータ ドリブン テストケースの場合は、Silk DDA Excel データ ソースを選択します。Segue DDA Excel データ ソースは後方互換性のために選択します。これにより、Segue DDA Excel を参照する既存の .g.t ファイルが引き続き機能します。

インストール手順

インストールおよびライセンスの問題については、『[Silk Test インストールガイド](#)』を参照してください。

既知の問題

このセクションでは、Silk Test の既知の問題とその解決策を示します。

SAP アプリケーション

SAPTree クラスの HierarchyHeaderWidth および ColumnOrder プロパティが書き込み専用になっている

自動化に関するドキュメントに記載されている場合を除いて、SAPTree の HierarchyHeaderWidth および ColumnOrder プロパティは書き込み専用で、読み込むことはできません。

これらのプロパティを使用する場合、スクリプトで、読み込みではなく、書き込みが使用されていることを確認します。

SAPTree クラスの GetColumnIndexFromName() が「特定できないエラー」により失敗する

SapTree クラスの GetColumnIndexFromName() は「特定できないエラー」により失敗することがあります。これは SAP オートメーションの既知の問題です。

SAP Web サイトでこの問題が解決されているかどうか確認してください。

コンテキスト メニュー項目の SAPTree クラスの Select() メソッドの呼び出しに失敗する

コンテキスト メニュー項目の SAPTree クラスの Select() メソッドの呼び出しに失敗することがあります。

代わりに親コントロールの SelectContextMenuItem を呼び出します。これは SAP オートメーションの既知の問題です。

水平スクロールバーの Position プロパティが常に 1 を返す

水平スクロールバーの Position プロパティは常に 1 を返します。これは SAP オートメーションの既知の問題です。

SAP Web サイトでこの問題が解決されているかどうか確認してください。

SAPNetPlan クラスがサポートされていない

この問題は今後のリリースで解決される予定です。

SAP スクリプトを高速モードで実行すると、再生エラーが発生する

SAP テストを Silk Test Recorder を使用して記録し、**再生速度: 速い** 設定で再生すると、エラーが発生する場合があります。エラー メッセージは、「この操作を完了するのに必要なデータは、まだ利用できません」です。

再生速度をこれより遅い設定に変更します。または、xBrowser ではなく、SAP オートメーションを使用して問題が発生する操作を再生するように、スクリプトを変更します。たとえば、その操作を DomLink.Select から SapHTMLViewer.SapEvent に変更します。

Web アプリケーション

Microsoft Windows 8 上での Mozilla Firefox

Microsoft Windows 8 では、テキスト キャプチャは Mozilla Firefox に対して機能しません。

Google Chrome の WaitForProperty のエラー

新しいページへの移動を起こす操作を実行したあと、WaitForProperty を使用して両方のページ上に存在するオブジェクトの同期を待つときに、ReplayException エラーになることがあります。この不具合を回避するには、操作を実行し、新しいページ上にのみ存在するオブジェクトで Find を実行したあと、それでも必要な場合に WaitForProperty を実行します。

Google Chrome の [設定] メニュー

Google Chrome で、**設定** メニューのサブメニューにアクセスしたときにクラッシュを起こすことがあります。この問題はバージョン 18 で起こります。

Microsoft Silverlight アプリケーション

一部の Microsoft Silverlight アプリケーションで、Silk Test との通信の際に Windows Internet Explorer がハングします。32 ビットプラットフォームでは、問題の防止に役立つ MS KB 2564958 (Active Accessibility の更新プログラム) を参照してください。

Google ツールバーを使用すると、Web アプリケーションの記録に支障をきたす

Windows Internet Explorer 8 で Google ツールバーを使用すると、Web アプリケーションのロケータの記録に支障をきたします。

Google ツールバーをオフにしてから、Web アプリケーションを記録してください。

Silk Test が Google Chrome の認証ダイアログ ボックスの ログイン および キャンセル ボタンを認識しない

Silk Test が Google Chrome の認証ダイアログ ボックスの **ログイン** および **キャンセル** ボタンを認識しません。以下の回避策のいずれかを使用して、この制限事項を回避できます。

- テストする Web サイトの URL にユーザー名とパスワードを指定します。たとえば、Web サイト `www.example.com/loginrequired.html` にログインするには、以下のコードを使用します。
`http://myusername:mypassword@example.com/loginrequired.html`
- TypeKeys を使用して、ダイアログ ボックスにユーザー名とパスワードを入力します。たとえば、以下のコードを使用します。

```
desktop.find("//Window[@caption='Authentication Required']/Control[2]").TypeKeys("myusername")
desktop.find("//Window[@caption='Authentication Required']/Control[1]").TypeKeys("mypassword<Enter>")
```



注: Control[2] はユーザー名のフィールドで、Control[1] はパスワードのフィールドです。2 番目の TypeKeys の末尾の <Enter> キーで、ダイアログ ボックスのエントリを確認します。

Silk Test 13.5 より前のバージョンの Silk Test を使用して記録したロケーターが Windows Internet Explorer で動作しない

Silk Test 13.5 で、Windows Internet Explorer の textContents 属性における空白文字の標準化を改良しました。この変更は、Silk Test のクロスブラウザ機能を改善するための措置で、textContents 属性を利

用しているロケーターに影響を与える可能性があります。この属性は、Silk Test 13.5 以前のリリースを使用して記録されたスクリプトで使用されています。

Google Chrome 21 : Accessibility オブジェクトが無効が見つからない

Google Chrome 21 で Web アプリケーションのロケーターを記録しているときに、ダイアログ ボックス内の一部の Accessibility オブジェクトが認識されなかったり、記録されるオブジェクトの階層が無効であったりすることがあります。この問題は、プロンプトや HTTP 認証ダイアログ ボックスなど、すべての JavaScript ダイアログ ボックスに適用されます。既存のテストでこれらのダイアログ ボックスを使用している場合、Google Chrome 21 でそれらのテストを再生するときに失敗することがあります。

Mozilla Firefox の最新のバージョンで Adobe Flash Player を使用したアプリケーションの呼び出しが正しく同期されない

Mozilla Firefox 13.0 以降で、最新の Adobe Flash Player のバージョンを使用している場合、呼び出しの際に同期が正しく動作しないことがあります。次の問題が発生する可能性があります。

- Mozilla Firefox は実行中のスクリプトをハングしているものと勘違いして、確認ダイアログ ボックスが表示され、スクリプトが正しく実行されているにもかかわらずスクリプトの実行を続けるかどうかを尋ねられる場合があります。
- SetFocus が正しく機能しないために文字の入力が動作しない場合があります。
- UI 上では新しい値で更新されているにもかかわらず Adobe オートメーションが古い値に戻す場合があります。

Adobe Flash Player を使用したアプリケーションでこれらの問題のいずれかが発生した場合は、Adobe Flash Player の保護モードを無効化してください。詳細については、<http://forums.adobe.com/thread/1018071> の「Last Resort」に記述されている情報を参照してください（日本語訳: http://helpx.adobe.com/jp/flash-player/kb/cpsid_93769.html の「F. 問題が改善されない場合」）。

Google Chrome に対して OpenTab が正しく機能しない

Google Chrome 上でアプリケーションをテストする際に OpenTab を使用すると、Google Chrome のオートメーション インターフェイスが応答を停止し、Google Chrome を再起動しなければならない場合があります。

Silk4NET TrueLog

テストの実行後に TrueLog 結果ファイルを得ることができない場合、次の項目を確認してください。

- Visual Studio 2010 で作成された Silk4NET プロジェクトが Visual Studio 2010 環境で実行されている (コマンドラインや Team Foundation Server から実行されている場合も含む)。
- Visual Studio 2012 で作成された Silk4NET プロジェクトが Visual Studio 2012 環境で実行されている (コマンドラインや Team Foundation Server から実行されている場合も含む)。
- テストクラスに SilkTestClass 属性が含まれている。
- TrueLog ファイルが作成される場所に対する書き込み権を持っている。

再生中に「単体テスト アダプタは例外をスローしました...」というエラー メッセージが表示される場合、次の項目を確認してください。

- Visual Studio 2010 で作成された Silk4NET プロジェクトが Visual Studio 2010 環境で実行されている (コマンドラインや Team Foundation Server から実行されている場合も含む)。
- Visual Studio 2012 で作成された Silk4NET プロジェクトが Visual Studio 2012 環境で実行されている (コマンドラインや Team Foundation Server から実行されている場合も含む)。

VS2010 で作成された Silk4NET プロジェクトを VS2012 に移行する方法

- VS2012 でソリューションを開きます。
- Silk4NET プロジェクトの対象のフレームワークを .NET Framework 4.5 に変更します。
- 参照 SilkTest.Ntf.VisualStudio2010.UnitTestingExtension を Silk4NET プロジェクトから削除します。
- 参照 SilkTest.Ntf.VisualStudio2012.UnitTestingExtension を Silk4NET プロジェクトに追加します。

Silk Test Workbench

スクリプトの再生時にバックグラウンドにメッセージ ボックスが表示される (31314)

メッセージ ボックスのステートメント (MsgBox ("Hello") など) を .NET スクリプトに含めた場合、スクリプトの再生時にバックグラウンドにメッセージ ボックスが表示されます。

メッセージ ボックスをフォアグラウンドに表示するには、MsgBox ステートメントに MsgBoxStyle.MsgBoxSetForeground を含めます。例：

```
MsgBox ("Hello", MsgBoxStyle.MsgBoxSetForeground)
```

インストーラが SQL Server Native Client のインストールと COM サーバーとしての Silk Test Workbench の登録に失敗する

Silk Test のインストール中またはインストール前に、オペレーティング システムが自動更新を実行するか、またはユーザーが Windows アップデートを行った場合、インストーラは SQL Server Native Client のインストールと COM サーバーとしての Silk Test Workbench の登録に失敗します。

これらの問題は共に、Silk Central Test Manager (SCTM) の統合に影響を与えます。それは、SCTM では SQL Server Express によってインストールされたネイティブ クライアント ドライバを使用して Silk Test Workbench DSN を作成するためです。さらに SCTM は、自動化に COM インターフェイスを使用するには、COM サーバーとして登録された Silk Test Workbench を必要とするためです。

以下の解決策のいずれかを選択します。

1. Windows アップデートの実行中に Silk Test をインストールしない。
2. 使用しているマシンに Windows アップデートが自動的にインストールされないようにする。
3. 保留中の Windows アップデートを Silk Test より先にインストールしてから、システムを再起動し Silk Test をインストールする。

複数の修飾キーを含めるようホット キーの組み合わせを変更すると、追加のキーが記録される

検証の挿入用または記録の開始/停止用に複数の修飾キーを含むホットキーを構成している場合は、修飾キーを押す操作が記録されることがあります。たとえば、Alt+Ctrl+F9 というホット キーの組み合わせを指定した場合、Alt は、ホット キーの組み合わせの一部として無視されるのではなく、キーを押す操作として記録されることがあります。これは、キーから手を離すという対応する操作がないため、再生時に問題になります。

修飾キーに関連するこの操作を手動で削除するか、ホット キーの修飾キーを 1 つだけ使用します。

SQL Server DSN が 64 ビット システムで動作しない

64 ビット DSN は Silk Test Workbench で使用できません。64 ビット マシン対応の DSN を作成するには、**スタート > Silk > Silk Test > 管理 > データ ソース (ODBC)** をクリックして、32 ビット DSN を作成します。C:\¥WINDOWS¥SysWOW64¥odbcad32.exe にある WOW64 ツールを使用することもできます。

Silk Test Workbench を起動するのにネットワーク接続が必要になる

Silk Test Workbench を起動するためには、ネットワーク接続が必要です。ネットワーク接続が使用できない場合、エラー「Open Agent との接続に失敗しました」が発生します。他のクライアント (Silk Test Classic、Silk Test Recorder など) を起動する場合には、ネットワーク接続は必要ありません。

Silk Test Workbench を起動する前に、ネットワーク接続が使用可能であることを確認してください。

SQL Server Express を Windows Vista SP1 マシンにインストールできない

Windows Vista SP1 マシンでは、SQL Server 2008 Express をインストールしようとする場合、.NET 3.5 SP1 の完全バージョンがインストールされていることを確認してください。.NET 3.5 SP1 の完全バージョンをインストールするには、Microsoft の Web サイトからダウンロードします。

For ループが使用されている場合、オートコンプリートおよび構文に関するヒントが不完全になる

For ループが .NET スクリプトで使用されている場合、最初にコードを入力したときに構文ヒントにオブジェクト メソッドだけが表示されます。

この問題は、Actipro の次の保守リリースで解決済みです。ただし、リリースのスケジュールは不明です。メソッドとプロパティを構文ヒントに表示するには、コードを編集して引数を含めるようにします。たとえば、以下のコードでは、構文ヒントにメソッドだけが表示されます。

```
Dim ad as ActiveData = Workbench.LoadActiveData("myAD")
  Dim adr as ActiveDataRow

  For each adr in ad
  Next adr
```

メソッドとプロパティを表示するには、For コードを以下のとおり編集します。

```
For each adr as ActiveDataRow in ad
```

無効なオブジェクトマップ エントリで、斜体で表示されない漢字がある

無効なオブジェクト マップ エントリが発生した場合、一部の漢字は斜体で表示されません。

無効なオブジェクト マップ エントリを識別するには、無効なエントリに割り当てられる赤色のテキスト、または **次のエラー** と **前のエラー** ツールバー ボタンを使用します。

[画面プレビューから識別] により、移行されたデータベースに不正なオブジェクト マップ項目が作成される

Silk Test Workbench 2010 から Silk Test Workbench 2010 R2 に移行したあと、**画面プレビューから識別** を使用すると不正なオブジェクト マップ項目が作成されます。

画面プレビューから識別 を使用する前に、**画面の更新** コマンドを使用して、画面を再キャプチャします。

.NET アプリケーションを DevPartner Studio (DPS) から起動すると、Silk Test で認識されない

この問題を解決するには、以下のステップを実行します。

1. Silk Test のインストール フォルダ (デフォルトでは C:\Program Files\Silk\Silk Test) に移動します。
2. Windows Forms アプリケーションの場合は、ng\agent\plugins \com.borland.fastxd.techdomain.windowsforms.agent_<version number> に移動します。
3. Windows Presentation Foundation (WPF) アプリケーションの場合は、ng\agent\plugins \com.microfocus.silktest.techdomain.wpf.agent_<version number> に移動します。
4. メモ帳で、ファイル plugin.xml を開いて、<loadparameters> セクションに以下の行を追加します。

```
<param
name="frameworkAssembly">mscoree.dll</param>
```

5. Silk Test のインストール フォルダの ng¥agent フォルダ (デフォルトでは C:¥Program Files¥Silk ¥Silk Test¥ng¥agent) に移動します。
6. メモ帳で、openagent.ini を開いて、ファイルの 1 番目の行として -clean を追加します。
7. コンピュータからログアウトして、再びログインします。DevPartner Studio によって起動されたアプリケーションに対して、Silk Test が期待どおりの動作をします。

スクリプトで停止を使用すると、エラー メッセージが表示される

Silk Test Workbench における現在のレベルの VB.NET デバッグ サポートにより、スクリプトでは VB.NET コマンド Stop (および Debugger.Break) を使用しないでください。

子スクリプトが親スクリプトから呼び出されると、子スクリプトはスコープ外のオブジェクト マップにアクセスできる

親スクリプトと子スクリプトが異なるプロジェクトに含まれており、異なるオブジェクト マップを使用している場合、オブジェクト マップが子スクリプトのスコープ外であっても、子スクリプトは正常に実行されます。

スクリプトが正常に実行されるため、解決策は必要ありません。ただし、この動作は今後のリリースでは正常に実行されなくなります。

複数ユーザーが SQL 2008 データベース上で同じ資産を同時に編集しようとすると、資産のロック機構に関する問題が発生する可能性がある

問題かどうかをテストするには、ビジュアルテストなどの資産を開いて、Silk Test Workbench で編集できるようにします。資産が開いている間に、Silk Test Workbench の別のインスタンスから同じ資産を開きます。問題が発生した場合は、Silk Test Workbench の 2 番目のインスタンスで同じ資産を同時に編集できるか、または 2 番目のインスタンスが不完全なデータに関するメッセージを受け取ります。このときユーザー名とマシン名は共に空白になります。

SQL Server で、データベースの管理者権限を、このデータベースを使用する SQL データベース ユーザーに割り当てます。

SQL データベースで資産のエクスポート中に予期しないエラーが発生する

SQL データベースで資産のエクスポート中に予期しないエラー「文字列から uniqueidentifier に変換中、変換に失敗しました」が発生します。

エクスポートしたデータベースをインポートし、何らかのエラー メッセージが表示された場合 OK を押します。インポートは正常に終了し、資産を使用できます。

Access データベースの使用中に予期しないエラーが発生する

Silk Test データベース メンテナンス ツールを使用してデータベースをコンパクト化します。スタート > プログラム > Silk > Silk Test > 管理 > データベース メンテナンス をクリックします。次に、データベースを開き、ツール > データベースのコンパクト化 をクリックします。

構成中に UAC が有効な状態で Silk Test Workbench が SQL Server へ接続できない

構成中に管理者権限を持たずに Silk Test Workbench を使用している場合、UAC が有効な状態で SQL Server へ接続できません。

構成中に SQL Server へ接続するには、管理者として実行 オプションを使用して Silk Test Workbench を起動する必要があります。

リモートの SQL データベースとの接続が失われたときに Silk Test Workbench が異常終了する場合があります

リモートの SQL データベースを使用している場合、データベースが Silk Test Workbench から切断されると (サーバーを再起動した場合など)、Silk Test Workbench がデータベースとの通信を行おうとする際に異常終了する場合があります。

Silk Test Workbench を再起動して、データベースと再接続してください。

コントロールのキャプチャ オプションが設定されているとビジュアル テストの再生速度が著しく低下する場合があります

再生のパフォーマンスを向上させるには、[コントロールのキャプチャ] を **いいえ** に設定します。

全般的な問題

大規模サイトでのビジュアル テストの再生

xBrowser の使用中に大規模サイトでビジュアル テストを実行すると、パフォーマンス問題が発生することがあります。この問題を回避するには、**再生 > 結果 > ビジュアル テスト > コントロールのキャプチャ オプション** を **いいえ** に設定します。

リモート デスクトップまたはリモート デスクトップ接続 (RDC) が最小化されると、Silk Test が機能しない

リモート デスクトップ プロトコル (RDP) 経由でデスクトップに接続している場合、マウスとキーボードを使ってデスクトップに接続することにより、デスクトップの所有権を獲得します。デスクトップの所有権を解放せずにデスクトップを最小化すると、マウス クリックまたはキーストロークの再生がすべて未定義になります。

推奨される構成としては、VMWare サーバーで Silk Test を実行し、VMWare クライアント ソフトウェア経由で接続します。これにより、クライアントが終了された場合でも再生を継続できます。

Check Point ファイアウォールがインストールされている場合に Open Agent が起動しない

システムに Check Point ファイアウォールまたは Check Point ZoneAlarm ファイアウォールをインストールしている場合は、ファイアウォールが Agent と infoservice 間の通信を中断するために Open Agent を起動できません。

Open Agent を起動するには、システムから Check Point ファイアウォールをアンインストールする必要があります。

Mozilla Firefox を使用した Silverlight アプリケーションのテストがマシンによっては機能しない

Mozilla Firefox で使用した場合、マシンによっては Silk Test での Silverlight のサポートが正常に動作しない場合があります。ホスト Mozilla Firefox プロセスがプラグイン プロセスを呼び出すのと同時に Mozilla Firefox プラグイン プロセスがホスト Mozilla Firefox プロセスを呼び出した場合、デッドロックが発生する可能性があります。詳細については、https://bugzilla.mozilla.org/show_bug.cgi?id=686861 または https://bugzilla.mozilla.org/show_bug.cgi?id=558986 を参照してください。

Silk Test が .Net Framework をプラグイン プロセスに読み込んで Silverlight をテストしているため、この既知の問題が Silk Test で発生する場合があります。この場合、COM オブジェクトを解放するときにガーベジ コレクションがホスト Mozilla Firefox プロセスで呼び出されますが、Silk Test は .Net Framework がガーベジ コレクションを呼び出すタイミングをコントロールできません。

バージョン 1.7 より前のバージョンの Prototype JavaScript Framework を使用する Web サイトのテストに Google Chrome を使用できない

これは、Prototype JavaScript Framework の問題で、バージョン 1.7 より前のバージョンのフレームワークでは、配列が正しく JSONified されないために発生します。これにより、Google Chrome テスト環

境と Silk Test 実装が依存する Google Chrome の内部 domAutomation オブジェクトが影響を受け、テスト中に Google Chrome が正しく動作しない原因となります。この問題は、Prototype JavaScript バージョン 1.7 以降で修正されています。

Google Chrome を使用して Prototype JavaScript Framework を使用する Web サイトをテストするには、Prototype JavaScript をバージョン 1.7 以降に更新してください。

Google Chrome のバックグラウンド アプリケーションによってオートメーション サポートの読み込みが妨げられる

Google Chrome を使用して Web アプリケーションをテストしている場合に、**Google Chrome を閉じた際にバックグラウンド アプリケーションの処理を続行する** チェックボックスがチェックされていると、Silk Test がオートメーション サポートを読み込むために Google Chrome を再起動することができない場合があります。

domDoubleClick メソッドの modifiers パラメータが無視される

domDoubleClick メソッドのオーバーロードで修飾キーを指定できません。パラメータが指定されている場合でも、修飾キーはダブルクリックされません。修飾キーを指定できる domDoubleClick メソッドのオーバーロードは、非推奨です。修飾キーを指定するには、doubleClick メソッド (modifiers パラメータを取るオーバーロード メソッドをサポートするクライアントを使用している場合)、または PressKeys および ReleaseKeys メソッドを使用します。

Web インストーラをサイレント セットアップ モードで使用できない

物理メディアからではなく、Web インストーラを使用して Silk Test をインストールする場合、サイレント セットアップ モードが機能しません。詳細については、『[Silk Test インストールガイド](#)』を参照してください。

Silk Test Classic

Silk Test モニターを実行する前に、agent.exe および partner.exe プロセスが強制終了されたことを確認する

Silk Test モニターまたは GUI レベル テストを実行する場合、モニター実行後に Agent.exe または Partner.exe プロセスが正しく終了せず、一時結果フォルダが開いたままになることがあります。モニター実行中にこの問題が発生すると、以降のモニターがすべて失敗し、エラー「LoadtestController: 3302 - 結果ディレクトリをクリアできませんでした」が表示され、クリアされません。

実行サーバー上で Agent.exe または Partner.exe プロセスを手動で強制終了するか、必要に応じて自動的にプロセスを強制終了する必須アクションを作成します。

ウィンドウ クラスをタグを付けずに宣言した場合、不明な動作が発生する

Silk Test でタグを付けずにウィンドウ クラスを実装した場合、不明なエラーとクラッシュが発生します。たとえば、以下のコードでは、tag 行は必須となります。

```
[ - ] winclass MyDialogBox : DialogBox
[   ] tag "[DialogBox]"
[   ] locator "//DialogBox[@caption='Check Box']"
```

タグ行が存在する場合、コードは本来の動作をします。ただし、タグ行が存在しない場合、不明なエラーとクラッシュが発生します。たとえば、以下のコードで問題が発生します。

```
[ - ] winclass MyDialogBox : DialogBox
[   ] locator "//DialogBox[@caption='Check Box']"
```

AnyWin クラスの古い CaptureText 関数の削除

古い 4Test 関数 AnyWin::CaptureText(STRING *sFileName*) が Classic Agent から削除されました。この関数をスクリプトで使用している場合は、次の 4Test コードで置き換えてください。

```
LIST OF STRING lsQuery  
<name of the window>.Query(lsQuery)  
ListWrite (lsQuery, sFileName)
```

解決済みの問題

以下の問題が解決されています。

問題番号	説明
RPI 1082425	Silk Test Workbench が、Table オブジェクトのプロパティを返すときにクラッシュする
RPI 1083904	Bitmap Tool で、比較している画像が表示されない
RPI 1083913	Open Agent の起動時のエラー
RPI 1083928	Windows Forms : ToolStripItemEventListener のメモリ リーク
RPI 1084062	DomTable : GetColumnCount 関数が正しくない値を返す
RPI 1084095	Open Agent が Java アプレット コンテナを認識できない
RPI 1084233	CheckBoxToolItem クラスの State プロパティが異常な値を返す
DE3102	ビジュアル テスト : Windows Internet Explorer 9 を使用して記録すると問題が起きる
DE3118	Winforms Infragistics サンプル アプリケーションの TextCapture メソッドによって 1 行のテキストが 2 行に分かれる
DE3125	Silk Test Workbench のコマンドライン インターフェイス : script パラメータが project パラメータとの組み合わせで省略できない
DE3238	Silk Test Workbench が、子スクリプトの実行中にコンパイル エラーでクラッシュする
DE3245	Silk Test Workbench が、別のスクリプトを参照している子スクリプトを実行できない
DE3295	<i>Silk Test Classic</i> のヘルプへのリンクが スタート メニュー がない
DE3367	ポップアップ メニューの列挙の問題
DE3372	Swing : OPT_SYNC_TIMEOUT オプションが無視されることがある

サポート終了コンポーネント

このセクションでは、Silk Test の現在および将来のバージョンでサポートされなくなるオペレーティングシステム、機能、および統合を示します。

Silk Test 13.5 の EOL コンポーネント

以下のオペレーティングシステム、機能、および統合は、Silk Test ではサポートされなくなります。

- Windows Internet Explorer 6
- Java SWT 3.2、3.3、3.4
- Mozilla Firefox 3.5
- Mozilla Firefox 4
- Java AWT/Swing (Classic Agent 上)
- SilkBean
- .NET 2.0 ランタイムで実行される Windows Forms (WinForms) アプリケーション



注: Silk Test は、.NET 2.0 で開発され、サポート対象の .NET ランタイムで実行されるアプリケーションを引き続きサポートします。

- Oracle 11.1、11.2
- Microsoft Windows Vista SP1
- Adobe Flex SDK 3.0、3.2、3.3、3.4

以下のブラウザのバージョンは高速リリース版です。これらのバージョンの製品のライフサイクルは非常に短く、新しいバージョンで次々に置き換えられていきます。Silk Test は、開発元のベンダーがサポートする限り、これらのバージョンをサポートします。高速リリース版に対しては、Silk Test で EOL が宣言されてからの猶予期間は通常より短くなります。

- Mozilla Firefox 5
- Mozilla Firefox 6
- Mozilla Firefox 7
- Mozilla Firefox 8
- Mozilla Firefox 9
- Mozilla Firefox 11
- Google Chrome 18



注: Silk Test は、Mozilla Firefox の法人向け延長サポート版 (ESR) に対しては通常のライフサイクルポリシーを適用します (Mozilla Firefox 10 など)。

次のリリースの Silk Test EOL コンポーネント

以下のオペレーティングシステム、機能、および統合は、次のリリースの Silk Test ではサポートされなくなります。

- Windows ベースのアプリケーション (Classic Agent 上)
- Web アプリケーション (Classic Agent 上)
- ActiveX/Visual Basic アプリケーション (Classic Agent 上)
- Microsoft ユーザー補助 (Classic Agent 上)
- Mozilla Firefox 3.6

- Java SWT 3.5
- Adobe Flex 3
- Windows Internet Explorer 7
- 3.7.2 より前の Eclipse バージョン

以下のブラウザのバージョンは高速リリース版です。これらのバージョンの製品のライフサイクルは非常に短く、新しいバージョンで次々に置き換えられていきます。 Silk Test は、開発元のベンダーがサポートする限り、これらのバージョンをサポートします。 高速リリース版に対しては、 Silk Test で EOL が宣言されてからの猶予期間は通常より短くなります。

- Mozilla Firefox 12
- Mozilla Firefox 13
- Mozilla Firefox 14
- Google Chrome 19
- Google Chrome 20
- Google Chrome 21



注: Silk Test は、 Mozilla Firefox の法人向け延長サポート版 (ESR) に対しては通常のライフサイクルポリシーを適用します (Mozilla Firefox 10 など)。

次のリリース後のリリースの Silk Test の EOL コンポーネント

以下のオペレーティング システム、機能、および統合は、次のリリース後のリリースの Silk Test ではサポートされなくなります。

- SQL Server 2005